

# 活動再発見「武岡台の森」

鹿児島県鹿児島市立武岡台小学校

6年 田苗真幸

6年 福迫美桜

## 1 はじめに

- (1) 鹿児島県の特徴 南北の距離は600km、海岸線は2,722km、竹林面積日本一、農業生産額全国2位  
屋久島1993年世界自然遺産に登録
- (2) 鹿児島市 今年の鹿児島は、大河ドラマ篤姫ブーム  
温泉、桜島
- (3) 本校区・本校の概要  
鹿児島市街地に最寄りの武岡団地(桜島を望む高台)に位置  
平成元年開校の新設校、1.4haの広さの学校林「武岡台の森」  
開校以来、北西斜面に手つかずのまま残された森林を、創立10周年の記念事業として、平成10年～11年度の2年間で学習に活用できるように整備

(観光キャンペーンキャラクター)



校庭と九州自動車道



タブ（シンボルツリー）と桜島



中庭の木々

## 2 学校林「武岡台の森」の整備と活動の見直し

### (1) 平成10年・11年に整備されたころの「武岡台の森」

- ふれあいランド(トカラヤギの家)
- いこいの森(野外教室として活用)
- 野鳥の森
- きのこの森、かぐやひめの里
- 縄文の森、弥生の森 など

### (2) 活動の見直し

年々森での活動が集約化され、各学年で取り組める大切な活動だけになっていった。それにあわせて、森で過ごす時間も少なくなり、活動の見直しの時期にきている。

### (3) 再整備のきっかけ

平成19年度より森林環境税支援事業の指定を受け、専門家の指導のもと森の再整備を進めてきている。また学習活動についても、これまでの資料を参考に、「武岡台の森・再発見」を進めている。



再整備の進む「武岡台の森」

### 3 森林体験活動と森林学習活動

～「森」を学び、「森」に親しみ、そして「森」と環境を見つめ直す～

#### ● 「武岡台の森」及び校庭の樹木について調べる活動

専門家に樹木の調査をいただき、児童が樹木の名前や木の特性などについて学習し、調査した樹木に名札を付ける。



#### ● 竹細工の体験活動

「武岡台の森」にある竹を生かした創作活動を行い、自然の恵みや生活とのかかわりを考える。

#### ● 空き缶炭焼き体験活動

炭の効用について調べたり、炭焼きを体験したりすることを通して、炭のよさを生活に生かす。



#### ● 地球温暖化防止に役立つ森林等についての学習活動

森林インストラクターから、地球温暖化防止に役立つ森林の役割等について話を聞き、自分を取り巻く自然環境とのかかわり方について学ぶ。

#### ○ 「武岡台の森」の整備活動

#### ○ シイタケ駒打ち体験活動(今年の取り組み)

### 4 むすび

武岡台小に入学して6年、1年生から5年生まで「武岡台の森」でいろいろな活動をしてきた。探検活動だったり、創作活動だったり、学習の材料を収集したりする活動もあった。ぼくたちにとってそれらの活動は、いつもわくわくする活動で、楽しいものばかりでだった。そして、それらはぼくたちのための「森」の活動でもあった。

しかし、6年になって、地球温暖化の問題や「森」のもつ役割を学習する中で、今度はぼくたちが「森」に対してできることはないか考えるようになった。そして、「森」を守ることは実はとても大変なことで、多くの労力を必要とすることにも気づき始めてきている。

小学生のぼくたちにできることは小さいことかもしれないが、「今、できることから」取り組んでいきたいと思う。そして、ぼくらの武岡台の森で活動する後輩たちも、森の活動をいっぱい楽しんだら、次は「森への恩返し」への実践をすすめてほしいと思う。

# 私たちの「学校林」活動—里山との「であい」「ふれあい」から

山梨県大月市立鳥沢小学校

6年 河端 陸

6年 古家綾莉

## 1 はじめに

**山梨県** 本州の中央部に位置する。日本一の霊峰「富士山」を有し、戦国武将武田信玄公が有名。生産量日本一を誇る桃・葡萄等の果樹王国でもある。

**大月市** 県東部に位置する。かつては甲州街道の宿場町であった。

**富浜町** 農林業・養蚕業・織物業の盛んな時代があった。今は、地元の工場や会社勤め、東京駅直通のE電を利用した首都圏への通勤者が多い。

**本校** 明治6年に開校。児童数209名。学級数8。校庭東側にビオトープ、校舎北側に自然観察路（通称「桜道」）、学校林を有する。

— 鳥沢小の教育と学校林活動 —



写真1 校庭からの学校林

「人・もの・こと・自然」等との「出会い・ふれあい 学びあい・高めあい」を通して『考える子 やさしい子 元気な子』になることを目標に、身の回りの豊かな自然や豊富な地域題材・地域の人材を活かした学習や活動を展開。自然体験活動を重視した、環境学習と心の教育に重点的に取り組んでいる。

## 2 学校林活動

「里山や森の緑に対する関心を高め、生活との関わりの中で問題意識を持ち、自ら課題を見つけて行動する力や、里山の自然やその恵を大切に、守り育てていこうとする態度を養うこと」を目標に取り組んでいる、本校の特色ある教育活動の一つである。

### (1) 学校林の整備・管理

○平成17年3月 地区在住富田氏所有の山林への入山許可（学校と協定を締結）

場所 大月市富浜町鳥沢字小袖地内 広さ1.5ha

区分 ヒノキの人工林 0.3ha コナラ他の自然林 1.2ha

○平成17年10月～ 国土緑化推進機構・県緑化推進機構からの助成金による学校林整備開始。（協力：県森林環境部みどり自然課、富士・東部林務環境事務所、大月市森林組合）（篠竹の刈り取り・地拵え・観察路の設置・植樹（クリ・カエデ等6種類 50本）・下草刈り・間伐材等を活用したものづくり）

○平成18・19・20年度 整備事業の継続（地拵え・植樹・下草刈り・看板の設置・新観察路の設置・椎茸栽培場の整備他）により学習環境の整備が進む。

### (2) 学習・体験活動

生活科・総合的な学習の時間・教科での学習や体験を通して

低学年…森に親しみ、森で遊ぶ

中学年…森に学ぶ

高学年…森を育て、森からの恵を生活に活かす

○森の観察会

『鳥小ふれあいランド』－「学校林の樹木」  
樹木名板の作成と取り付け  
案内地図とミニ図鑑の作成・観察会  
(協力：富士・東部林務環境事務所)  
樹木オリエンテーリング  
学年観察会 親子観察会  
里山の四季－樹木や生き物の生活の変化  
(各自の「私の木」を中心に観察の継続)  
学校林の樹木と校庭・ビオトープの樹木  
との比較(「私の木」との比較)



写真2 ふれあい観察会

○林業体験

卒業記念植樹 里山である学校林で見られる、花・実・紅葉の楽しめる樹種  
一人一本ずつ、願いを込めたメッセージ  
を付けて植樹  
(協力：富士・東部林務環境事務所・  
大月市森林組合)  
親子下草刈り体験  
森林管理の学習会、枝打ち・間伐の見学  
(協力：扇山管理委員会)



写真3 記念植樹と森のマスコット

○森の恵の活用

<椎茸栽培>

コナラ・クヌギの間伐材を原木に植菌・  
本伏せ・収穫  
(協力：富士・東部林務環境事務所・大月  
市森林組合・地域ボランティア)

<ものづくり>

落ち葉・木の実を用いた作品づくり  
篠竹を用いたウグイス笛等の製作  
間伐材によるペンスタンド・ミニトナカイ  
の製作  
間伐材(丸太)による大きな動物・案内板の製作  
木製プランター等実用的なものの製作  
巣箱づくりと巣箱かけ、野鳥の観察  
(協力：扇山管理委員会 大月エコの里 保護者・地域ボランティア)



写真4 椎茸植菌作業

3 おわりに

学校から徒歩5分のところにある里山。学校林として整備を始める以前は、篠竹が生い茂り、枯れた松の倒木があり、森の中に入って活動できるような状態ではなく、森に入る者も少なかった。地拵え・観察路の設置等をしていただいたおかげで、明るく親しみやすい里山・親しみやすい森へと変わった。私たち小学生はもとより、保護者や地域の方々も、身近にある里山に入ること、四季の変化を感じ取り、里山のもつ自然やその恵と出会い、ふれあうことを通して学べることは多い。

整備をはじめてから4年。今や学校林は、保存会やPTAの手で守られてきたビオトープや桜道、樹齢100年を越え、鳥沢小の歴史を見守ってきた市天然記念物のコノテガシワ等とともに鳥沢小学校の大事な財産の一つになった。「学校の森」として親しまれている学校林での学習や体験を私たちの学校生活や人々の営みと結びつけ、森の恵に感謝し、自然を守り育てていく思いを他に伝え、広げていく活動にも取り組んでいきたい。

# 私たちの「遊YOUの森」活動



高知県奈半利町立奈半利小学校  
6年 坂本龍成  
6年 田中尚人

## 1. はじめに

### 【奈半利町】

高知県東部に位置し、南に太平洋、西は奈半利川に面し、北東は野根山をのぞむ大自然に恵まれた場所にある。

### 【奈半利小学校】

児童数140名。学級数8。



(奈半利小学校 運動場から)

## 野根山街道

山間部にある野根山街道は、奈半利町から東洋町の野根まで尾根伝いに約35kmもあり、土佐と上方を結ぶ重要な交通路として昔から多くの人々に利用されてきた。古くは紀貫之の入国、1221年の承久の乱にて流刑となった土御門上皇が通られた歴史ある道である。また、江戸時代には参勤交代の道として、幕末には中岡慎太郎が脱藩した道としても知られている。その野根山街道の途中に、私たちが活動を行っている「遊YOUの森」がある。

## 2. 自然体験学習

学校から、車で20分のところに、旧分校を整備した「米ヶ岡生活体験学校」があり、そこで自然体験学習を行っている。米ヶ岡地区は、おいしいお米がとれる事で有名。さらに、その水源地としての山で体験活動をする場所として「遊YOUの森」がある。

### 【米ヶ岡生活体験学校・通学合宿】



(旧分校跡)



(田植え)



(稲刈り)



(野根山街道)

### 【遊YOUの森】

- 平成16年、安芸森林管理署と奈半利町教育委員会が協定を締結。「遊々の森」の名称を「遊YOUの森」とする。
- 学校行事や通学合宿に合わせて活動を行う。



(カモフラージュ)  
自然の中から人工物を見つけ出すゲーム



(目隠しトレイル)  
耳や手足の感覚だけで進むゲーム



(秘密基地作り)  
子どもたちの「作りたい」という願いが叶う



(バードコール作り)  
枝打ちした材料をこすり合わせると「キコキコ」「キュッキュ」



(クラフト)  
間伐材や自然物を用いて、置き物作りをした



(秘密基地作り)  
今年、2度目の基地作りを行う

### 3. 森林についての学習

- 5年生社会科「私たちの生活と自然環境」、国語科「森林のおくりもの」、6年生国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか」、総合学習「自然環境問題」などを主な学習の場として取り組んでいる。
- 「森林の役割」について学び、森林を大切にしていこうとする態度を養う。

### 4. 成果および今後の課題

森林学習を進めてきて、私たちが生きていくうえで森林の果たす役割がとても大きい事を知った。また、実際に「遊YOUの森」に出かけて行き、そこでたくさんの体験活動を行う事で、これからも森を大切にしていこうと感じた。

これからは、貴重な木材を無駄にしないようにしていきたい。そして、私たちの森である「遊YOUの森」を守り、森林の大切さをみんなに伝え、さらに森林をはじめ郷土の自然も大切にしていきたい。また、機会があれば、切り出された木が製材所でどのように加工されるのか調べたり、森林に住んでいる生き物や動物なども学習していきたいと思う。

# 活動発表の様子



## 《 講 評 》

みなさん、とても楽しい発表をしていただき、ありがとうございます。それぞれの学校の方たちが、何よりも自分たちのすぐ近くにある学校林や遊々の森を大切な自分の友だちのように思って、これからもそれを受け継いでいこうという気持ちがとても表れていると思いました。

森を大切にしよう、森を守ろうということは、世界中の人たちが、「そうだよ」と言います。森なんかなくなっちゃえばいいよと思う人のほうが少ないんじゃないかと思えます。しかし本当に森に入って、森で楽しい体験をしていない人たちが、1回も森に入ったことのない、遊んだことのない人たちが、「森は大切だよ、じゃあ、どうやってその大切な森を守っていけばいいの?」と聞かれた時に、こういうことをすればいいとすぐわかると思えますか?どんなに森のお勉強をしたり、人から大切だよと教えてもらったりしても、森でたくさん楽しい体験をしていない人たちは、大人になってもわからないのかもしれませんが、でも、今日ここで発表して下さった人たちは、森の中でとても大切な思い出を持ちながら、楽しい体験をたくさんしていました。

カブトムシの幼虫を森に返して、森の中で育てていくのを待っていたり、校長先生がカブトムシやクワガタが来るように森に蜜を塗ってみんながそれを体験したり。シイタケやタケノコ、お茶、森が作る水が作ってくれるお米などは、自分たちの大切な森や森の周りが育ててくれたものですから、美味しいだろうなと思えます。何より、森で遊ぶのは楽しいよ、森に入るのはこんなに気持ちいいよ、この森がなくなったらいやだなという気持ちをずっと受け継いでいきたいという気持ち。これは、本当に楽しい体験をした人だけが森からもらえる大切な宝物だと思います。

日本の面積の半分以上は森です。周囲は全部海ですけど、海に住んでいる生き物たちを育てているのも森です。私たちが食べるお米も、私たちが気持ちいいねと言っている空気も、そして何よりも、その木が育てていく土を作っているのも森なんです。みなさんがしているような楽しい体験がないと、どんなに頭の中で考えたって、どうやって森を守っていいのか、森がなくなった時にどんなことが困るのか、本当に分からないと思えます。

「森を守る」。言葉で言うのは簡単ですが、実際に行動に移すのは、とても大変なことです。森を作っている木という生き物は、人間よりもずっとずっと長生きです。世界遺産の屋久島でいちばん歳を取っている木はなんと5000年以上は生きていっているとされています。実は、森に生えている木には寿命はないくらいなのだそうです。人間が森をいじめたり、大事に思わなかったり、また雷や天候で寿命が途切れることもあるけれど、それでも少なくとも私たち人間よりもずっとずっと長生きです。その木が土台になって、その周りにたくさんの生き物がいて、そこから土もできて、水も流れている。そういう森を大切に守って育てていくことに、私たち人間が関わるのは、本当に大変で難しいことです。

みなさんたちが小学校を卒業して、地域の人たちと一緒に、また森を守る側になったり、世界の森を見る機会があった時には、どうかそこでの大切なことや森を守っていく活動を伝える側の人間になってください。人間は森の木や生き物たちを使って、生きていくということを長い年月やってきましたが、森を簡単に壊すということも、今、地球上でたくさん行われています。でも、今日発表してくれた学校林や遊々の森で学んで、森で体験している子どもたちは、森を壊す側の人間になるのか、森を守って育てて受け継いでいく側の人間になるのかということは、簡単に答えが出せるのではないかと思います。これからも、学校や地域での活動をたくさんの人たちが応援してくださっていますので、どうかたくさんの人にこの思いを伝えていっていただきたいと思えます。



NPO 法人  
くすの木自然館  
専務理事 浜本奈鼓





# 森のワークショップ

## ① 「森の神様」

～ 森の生態を学び、世界の森林を知ろう! ～

森の神様になったつもりで、世界でたった一つの鳥を考えようというワークショップ。森の条件は、(1)海が近くにある(2)深く、大きな森である(3)人も利用している(4)高い山がある(5)ほら穴がある、の5つ。くちばしや羽根、足、大きさ、どこに住んでいるのか、何を食べているのか、何色なのかなど、大人も子どもも、6人ずつ3つのチームに分かれて、神様になって考えます。みんなで話し合っ出来上がった鳥は「五輪の森のユウスケ鳥」「虹色の森のレインボーバード」「無敵森のムテキドリ」など個性的な鳥ばかり。最後に、講師の浜本奈鼓先生からは、「森の条件を人間が変えると、鳥は生きていけない。彼らがずっと生きていけるような条件を整えてあげることが大事なんです」というお話がありました。



浜本奈鼓先生

参加した子どもたちからは、「自分が神様になった気分です。みんなで意見を出し合っ、最後にまとめてうまく鳥ができました」「鳥の性質を考えたりするのは難しかったけど、カメレオンのように色を変えられる鳥というのは面白いと思う。ただ、こういう鳥がいたら森は台無しになってしまうなと思う」などの感想が寄せられました。



## ② 「忍法！鳥よせの術！」

～ 森の野鳥の鳴き声や生態を学び  
野生生物と友達になろう！ ～



立山芳輝先生

まずは、森に出るときは、長袖、長ズボン、そして飲み物を必ず持参しましょうと、森林での活動の心構えからスタート。準備が整ったらいよいよ森へ出かけます。

教科書は森そのもの。季節ごとに、生えている植物も違えば、聞こえてくる鳥や虫の声も違います。小さな生き物の痕跡を見つけるために、五感をフルに活用しました。そして実際に、アリジゴクの巣を見つけたり、カラスの鳴き声を聞くことができました。参加者たちは、身近な森にこんなに生き物の痕跡が残っていることに、驚きと興味津々のようです。

いよいよ最後は、メインイベントの「バードコール」作り。木材にネジをさし、その摩擦音が鳥のヒナの鳴き声に似ているというものです。参加者たちは自分で作った「バードコール」にとっても満足な様子で、活動の思い出とお土産ができたとても喜んでいる様子でした。

参加した子どもたちは、「木とネジ使って、ヒナの鳴き声ができる道具を作りました。とてもきれいでかわいい音がした。初めて作ったけど、上手にできたのでよかった」「カラスやウグイスなどいろんな鳥の鳴き声のマネをした。帰ったら、うちの周りでどんな鳥の鳴き声が聞こえるか聞いてみたい」などと話していました。

